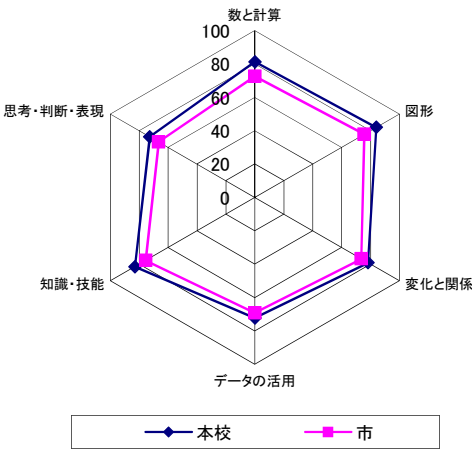


宇都宮市立今泉小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	81.3	72.6	73.1
	図形	84.0	75.7	74.7
	変化と関係	78.2	73.6	66.1
	データの活用	72.3	69.2	70.7
観点別	知識・技能	83.0	75.5	74.4
	思考・判断・表現	72.8	66.5	67.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(算数では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均よりも高い。 ○分数や小数の四則計算の設問では正答率がいずれも8割程度であった。計算ドリルやAドリルを利用して繰り返し課題に取り組んだ成果であると考えられる。 ●小数の乗法の考え方を基に、整数×分数の計算のしかたを考え、説明する設問では、市の平均正答率を上回っているものの、正答率は8割程度であり課題と言える。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・問題に合わせて四則計算を活用するような問題に、これまで通り取り組むことで、解法に習熟するとともに応用的な問題に対応する力をつけさせたい。 ・授業場面で正答の確認に終始せず、誤答を基に学び合える授業展開を推進することで、思考力・表現力の向上を目指す。 ・数量や数式の間隔を数直線等で表せるように自分の考えを図式化する力をつけさせたい。
図形	平均正答率は、市の平均よりも高い。 ○線対称な図形の対応する点を見つける設問では市の平均を19.4ポイント上回っている。作図による体験的に理解を図る指導や、Aドリルを活用した個別の復習の成果であると考えられる。 ●三角形の内角の和が180°であることを理解し、2つの角が与えられた三角形の1つの外角を求める設問の正答率は、市の平均を上回っているが、正答率は7割程度で、更なる習熟が必要だと言える。	・面積と体積、平均や密度等の考え方や求め方に関する課題を定期的に出すことで、復習する機会を設け、学習内容の定着を図りたい。 ・本領域に対して苦手意識をもっている児童には、個別に声を掛け、授業で扱う図形に対して補助線を入れて説明する等、基礎的な内容を習熟させることで学力向上を目指す。
変化と関係	平均正答率は市の平均よりも高い。 ○半分が何%であるかを理解する設問の正答率は93.3%で市の平均より2.7ポイント高く、十分な定着が図れているといえる。 ●速さの単位の間隔を理解し、分速を秒速や時速に直す設問の正答率は66.3%で、市の平均よりも9.4ポイント上回ったものの7割に届かず、さらなる習熟が必要だといえる。	・今後も、面積や平均の求め方について定期的に復習する時間を設け、学習内容のさらなる定着を図る。 ・課題を設定する際には普段の生活から数量の変化の間に目を向け、興味関心をもつことができるように、実生活に関連付けた事象を取り扱う。 ・単位の変換に関して、図や表などを使って視覚的に表現する力をつけさせたい。
データの活用	平均正答率は、ほぼ市の平均より低い。 ○ソフトボール投げの記録の結果のデータから平均値を求める設問の正答率は88.5%で、市の平均より5.2ポイント高く、よく理解できていた。 ●代表値を用いて、えみさんの記録がクラスの半分より高い記録なのかどうかを説明する設問の正答率は24%と、市の正答率を5.8ポイント下回っており、データの活用に関する設問の中での正答率は低く課題である。	・今後も、身の回りの事象について、興味・関心や問題意識をもって、統計的な問題解決の方法で考察できるよう指導していく。 ・目的に応じたデータの収集や分類整理、表やグラフ、代表値の適切な選択など、一連の統計的な問題解決の方法を理解するだけでなく、その結果や結論を批判的に捉え、妥当性について考察したり、自分の考えを整理してまとめたりすることができるよう指導していく。